



# Red Hat JBoss Core Services 2.4.57

## Red Hat JBoss Core Services Apache HTTP Server 2.4.57 Service Pack 3 リリースノート

Red Hat JBoss Core Services Apache HTTP Server 2.4.57 での使用



# Red Hat JBoss Core Services 2.4.57 Red Hat JBoss Core Services Apache HTTP Server 2.4.57 Service Pack 3 リリースノート

---

Red Hat JBoss Core Services Apache HTTP Server 2.4.57 での使用

## 法律上の通知

Copyright © 2024 Red Hat, Inc.

The text of and illustrations in this document are licensed by Red Hat under a Creative Commons Attribution–Share Alike 3.0 Unported license ("CC-BY-SA"). An explanation of CC-BY-SA is available at

<http://creativecommons.org/licenses/by-sa/3.0/>

. In accordance with CC-BY-SA, if you distribute this document or an adaptation of it, you must provide the URL for the original version.

Red Hat, as the licensor of this document, waives the right to enforce, and agrees not to assert, Section 4d of CC-BY-SA to the fullest extent permitted by applicable law.

Red Hat, Red Hat Enterprise Linux, the Shadowman logo, the Red Hat logo, JBoss, OpenShift, Fedora, the Infinity logo, and RHCE are trademarks of Red Hat, Inc., registered in the United States and other countries.

Linux<sup>®</sup> is the registered trademark of Linus Torvalds in the United States and other countries.

Java<sup>®</sup> is a registered trademark of Oracle and/or its affiliates.

XFS<sup>®</sup> is a trademark of Silicon Graphics International Corp. or its subsidiaries in the United States and/or other countries.

MySQL<sup>®</sup> is a registered trademark of MySQL AB in the United States, the European Union and other countries.

Node.js<sup>®</sup> is an official trademark of Joyent. Red Hat is not formally related to or endorsed by the official Joyent Node.js open source or commercial project.

The OpenStack<sup>®</sup> Word Mark and OpenStack logo are either registered trademarks/service marks or trademarks/service marks of the OpenStack Foundation, in the United States and other countries and are used with the OpenStack Foundation's permission. We are not affiliated with, endorsed or sponsored by the OpenStack Foundation, or the OpenStack community.

All other trademarks are the property of their respective owners.

## 概要

このリリースノートには、Red Hat JBoss Core Services Apache HTTP Server 2.4.57 に関する重要な情報が記載されています。

---

## 目次

はじめに .....	3
RED HAT JBOSS CORE SERVICES ドキュメントへのフィードバック .....	4
多様性を受け入れるオープンソースの強化 .....	5
第1章 新機能および機能拡張 .....	6
1.1. MOD_PROXY_CLUSTER の RESPONSESTATUSCODEONNOCONTEXT ディレクティブ .....	6
第2章 RED HAT JBOSS CORE SERVICES 2.4.57 のインストール .....	7
第3章 RED HAT JBOSS CORE SERVICES APACHE HTTP SERVER 2.4.57 へのアップグレード .....	8
RPM パッケージからインストールされた場合の JBOS のアップグレード .....	8
アーカイブファイルからインストールされた場合の JBOS のアップグレード .....	8
関連情報 .....	9
第4章 解決した問題 .....	10
第5章 既知の問題 .....	11
第6章 サポートされるコンポーネント .....	12
第7章 このリリースに関連するアドバイザリー .....	13



## はじめに

Red Hat JBoss Core Services バージョン 2.4.57 Service Pack 3 リリースへようこそ。

Red Hat JBoss Core Services の Apache HTTP Server は、[Apache Software Foundation](#) により開発されたオープンソースの Web サーバーです。Apache HTTP サーバーには、次の機能が含まれます。

- HTTP/1.1 や HTTP/2 を含む現在の HTTP 規格を実装しています。
- Web サーバーと Web クライアント間のセキュアな接続を提供する [OpenSSL](#) による Transport Layer Security (TLS) 暗号化をサポートしています。
- モジュールを使用した拡張可能な機能をサポートしています。その一部は、Red Hat JBoss Core Services Apache HTTP Server に含まれています。

## RED HAT JBOSS CORE SERVICES ドキュメントへのフィードバック

エラーを報告したり、ドキュメントを改善したりするには、Red Hat Jira アカウントにログインし、課題を送信してください。Red Hat Jira アカウントをお持ちでない場合は、アカウントを作成するように求められます。

### 手順

1. [このリンクをクリック](#) してチケットを作成します。
2. **Summary** に課題の簡単な説明を入力します。
3. **Description** に課題や機能拡張の詳細な説明を入力します。問題があるドキュメントのセクションへの URL を含めてください。
4. **Submit** をクリックすると、課題が作成され、適切なドキュメントチームに転送されます。



## 多様性を受け入れるオープンソースの強化

Red Hat では、コード、ドキュメント、Web プロパティにおける配慮に欠ける用語の置き換えに取り組んでいます。まずは、マスター (master)、スレーブ (slave)、ブラックリスト (blacklist)、ホワイトリスト (whitelist) の 4 つの用語の置き換えから始めます。この取り組みは膨大な作業を要するため、今後の複数のリリースで段階的に用語の置き換えを実施して参ります。詳細は、[Red Hat CTO である Chris Wright のメッセージ](#) をご覧ください。

## 第1章 新機能および機能拡張

Red Hat JBoss Core Services (JBCS) 2.4.57 Service Pack 3 には、次の新機能と拡張された機能が含まれています。

### 1.1. MOD\_PROXY\_CLUSTER の RESPONSESTATUSCODEONNOCONTEXT ディレクティブ

JBCS 2.4.57 Service Pack 3 リリース以降では、**mod\_proxy\_cluster** モジュールに **ResponseStatusCodeOnNoContext** ディレクティブも含まれます。 **ResponseStatusCodeOnNoContext** ディレクティブを使用すると、**ProxyPass** または **ProxyPassMatch** ディレクティブに一致するコンテキストがない場合にサーバーがクライアントに送信する応答ステータスコードを指定できます。デフォルトのステータスコードは **404** です。



#### 注記

JBCS 2.4.51 以前では、**ProxyPass** または **ProxyPassMatch** ディレクティブに一致するコンテキストがない場合に、サーバーがデフォルトで **503** ステータスコードを送信しました。以前のリリースで使用可能だったデフォルトの動作を維持する場合は、代わりに **ResponseStatusCodeOnNoContext** ディレクティブを **503** に設定します。

標準の HTTP 応答コード以外の値を指定した場合、サーバーアクセスログには指定された値が表示されますが、サーバーはクライアントに **500 Internal Server Error** 応答を送信します。

## 第2章 RED HAT JBOSS CORE SERVICES 2.4.57 のインストール

Apache HTTP Server 2.4.57 を Red Hat Enterprise Linux または Windows Server にインストールできます。詳細は、インストールガイドの次のセクションを参照してください。

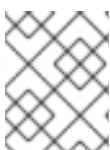
- [アーカイブファイルから RHEL に JBCS Apache HTTP サーバーをインストールする](#)
- [RPM パッケージから RHEL への JBCS Apache HTTP Server のインストール](#)
- [Windows Server に JBCS Apache HTTP サーバーをインストールする](#)

## 第3章 RED HAT JBOSS CORE SERVICES APACHE HTTP SERVER 2.4.57 へのアップグレード

最新の Red Hat JBoss Core Services (JBCS) リリースにアップグレードする手順は、以前に JBSC を RPM パッケージからインストールしたか、アーカイブファイルからインストールしたかによって異なります。

### RPM パッケージからインストールされた場合の JBSC のアップグレード

**yum groupinstall** コマンドを使用して、RHEL 7 または RHEL 8 上の RPM パッケージから JBSC Apache HTTP Server の以前のリリースをインストールしている場合は、最新リリースにアップグレードできます。**yum groupupdate** コマンドを使用して、RHEL 7 または RHEL 8 上で 2.4.57 リリースにアップグレードできます。



#### 注記

RHEL 9 では、JBSC は Apache HTTP Server の RPM ディストリビューションを提供しません。

### アーカイブファイルからインストールされた場合の JBSC のアップグレード

JBSC Apache HTTP Server の以前のリリースをアーカイブファイルからインストールした場合は、次の手順を実行して Apache HTTP Server 2.4.57 にアップグレードする必要があります。

1. Apache HTTP Server 2.4.57 をインストールします。
2. Apache HTTP Server 2.4.57 をセットアップします。
3. 以前のバージョンの Apache HTTP Server を削除します。

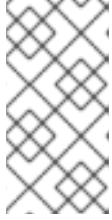
ここでは、アーカイブファイルからインストールした JBSC Apache HTTP Server 2.4.51 リリースを最新の 2.4.57 リリースにアップグレードする際の推奨手順を説明します。

#### 前提条件

- Red Hat Enterprise Linux を使用している場合は、root ユーザーアクセス権があります。
- Windows Server を使用している場合は、管理アクセス権がある。
- Red Hat JBoss Core Services Apache HTTP Server 2.4.51 以前は、アーカイブファイルからシステムにインストールされています。

#### 手順

1. Red Hat JBoss Core Services Apache HTTP Server 2.4.51 の実行中のインスタンスをすべてシャットダウンします。
2. Red Hat JBoss Core Services の Apache HTTP Server 2.4.51 インストールおよび設定ファイルをバックアップします。
3. 現在のシステムの .zip インストール方法を使用して、Red Hat JBoss Core Services の Apache HTTP Server 2.4.57 をインストールします (以下の [関連情報](#) を参照)。
4. Red Hat JBoss Core Services の Apache HTTP Server バージョン 2.4.51 からバージョン 2.4.57 に設定を移行します。



## 注記

Apache HTTP Server の設定ファイルは、Apache HTTP Server 2.4.51 リリース以降変更になる可能性があります。2.4.57 バージョン設定ファイルは、別のバージョン (Apache HTTP Server 2.4.51 など) の設定ファイルで上書きするのではなく、更新することを検討してください。

5. Red Hat JBoss Core Services Apache HTTP Server 2.4.51 ルートディレクトリーを削除します。

## 関連情報

- [アーカイブファイルから RHEL に JBCS Apache HTTP サーバーをインストールする](#)
- [RPM パッケージから RHEL への JBCS Apache HTTP Server のインストール](#)
- [Windows Server に JBCS Apache HTTP サーバーをインストールする](#)

## 第4章 解決した問題

このリリースでは、次の問題が解決されています。

問題	Summary
JBCS-1700	[RHEL9] mod_jk を 1.2.49 にアップグレードして、他のすべての JBCS リリースで使用されるバージョンと同期させます。
JBCS-1678	[RHEL9] mod_proxy_cluster を 1.3.20 にアップグレードして、他のすべての JBCS リリースで使用されるバージョンと同期させます。
JBCS-1642	mod_proxy_cluster は、一致するコンテキストがない場合、503 ではなく 404 を返すようになりました。
JBCS-1476	jbcs-httpd24-httpd は jbcs-httpd24-brotli に依存しません。
JBCS-1460	mod_cluster は httpd 2.4.53 以降でメモリーをリークします。
JBCS-1369	mod_cluster はまれですが予期しない 404/503 を返します。
JBCS-1179	[ドキュメント] RHEL8 の前提条件パッケージを確認します。

このリリースのセキュリティ修正の詳細は、[このリリースに関連するアドバイザリー](#)のエラータリンクを参照してください。

## 第5章 既知の問題

このリリースには既知の問題がありません。

## 第6章 サポートされるコンポーネント

Red Hat JBoss Core Services の今回のリリースでサポートされるコンポーネントバージョンの完全リストは、[Core Services Apache HTTP Server Component Details](#) ページを参照してください。Component Details ページにアクセスする前に、有効な Red Hat サブスクリプションがあり、Red Hat カスタマーポータルにログインしていることを確認する必要があります。



## 第7章 このリリースに関連するアドバイザリー

このリリースに含まれる拡張機能、バグ修正、および CVE 修正を文書化するために、以下のアドバイザリーが発行されています。

- [RHSA-2024:1316](#)
- [RHSA-2024:1317](#)